

VI 令和6年度 全国大会報告

第99回 令和6年度全日本盲学校教育研究会・熊本大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「社会の変化に対応した視覚障害教育の変革」
- (2) 期 日 令和6年7月25日（木）～7月26日（金）
- (3) 場所（会場） 熊本城ホール（シビックホール及び会議室）

2 内 容

- (1) 全体会・講演
演 題 「挫折からの復活: 信念の力と人生の転機」
講 師 岩本光弘 氏（ライフコーチ・ブラインドセーラー）
- (2) 分科会・研究発表（発表者 33 名）
 - ア 第1分科会 学習指導 1
研究テーマ
 - 視覚障害の特性に応じた支援の考え方及び支援技術の活用
 - コミュニケーション能力や表現力、思考の柔軟性を育てる指導
 - イ 第2分科会 学習指導 2
研究テーマ
 - 視覚障害の特性に応じた支援の考え方及び支援技術の活用
 - 意欲を引き出す指導や気づきに繋がる指導、教材・教具の工夫
 - ウ 第3分科会 生活
研究テーマ
 - 自立と協働を目指し、視覚障害者の可能性を拡張するための指導
 - 多様化した幼児児童生徒の社会参加に向けた支援のあり方
 - エ 第4分科会 特別支援
研究テーマ
 - 視覚特別支援学校（盲学校）における専門性の維持・向上
 - 視覚障害教育におけるセンター的役割とネットワークづくり
 - オ 第5分科会 理療
研究テーマ
 - 理療教育における主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実践
 - 実技における第三者評価導入の取り組み
 - 理療教育を進めるための ICT 活用実践報告～教科指導、オンライン実践、情報共有など

3 報 告

今年度は、集散型のみで開催となった。本校からは、大会運営委員として校長、第5分科会（理療）の司会者として1名、記録者として1名、受講者として3名が参加した。次年度は、本校が発表担当となるため、現在の研究の動向を知ることができ大変参考になった。質疑応答の際には、実際に使用した教材を持参している発表者もおり工夫がなされ、情報交換もでき有意義な大会となっていた。

第58回全日本聾教育研究大会（東京大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の聴覚障害教育を考える」
～子供たちが豊かな人生を自ら切り拓くために～
- (2) 期 日 令和6年10月17日（木）、18日（金）
- (3) 場所（会場） 国立オリンピック記念青少年総合センター、大塚ろう学校、中央ろう学校、葛飾ろう学校、立川学園

2 内 容

【1日目】10月17日（木）

授業公開（大塚ろう学校、中央ろう学校、葛飾ろう学校、立川学園）

授業研究分科会（幼稚部、小学部低学年、小学部高学年、小学部重複、中学部、高等部）

開会式・記念講演会

【2日目】10月18日（金）

研究協議分科会

- | | |
|-----------------|--------------|
| ① 早期教育1（乳幼児） | ② 早期教育2（幼稚部） |
| ③ 教科教育1（小学部） | ④ 教科教育2（文系） |
| ⑤ 教科教育3（理系） | ⑥ 教科教育4（実技系） |
| ⑦ 自立活動1 | ⑧ 自立活動2 |
| ⑨ 重複障害教育 | ⑩ 寄宿舎教育 |
| ⑪ キャリア教育、卒業後の支援 | ⑫ センターの機能 |

閉会行事

【記念講演】

演題 「新しい時代の聴覚障害教育へ ―ろう教育の継承と発展―」

講師 澤 隆史 氏（東京学芸大学）

3 報 告

授業公開では、主に大塚ろう学校小学部の授業を参観した。各学年2～3クラスほどあり、1クラス約6名の児童が在籍する学級構成となっていた。低学年は、自分たちが作った作品をタブレットで撮影し、モニターで共有しながら、感想を述べ合っていた。また、それぞれの学級に電子黒板が配置されており、特に高学年は、モニター上で資料を確認したり、教科書の段落読みを行ったりと活用頻度が高かった。

授業研究分科会では、指定授業を参観した後、協議、助言が行われた。参加した小学部低学年の研究テーマは、「自ら切り拓く力を育む」であった。集団の中で対話をとおして考えを深め、課題を解決する力の育成を目指す教育実践をされており、参観した授業の中でも話し合い活動の時間が多く設定されていた。助言者より、低学年は、自分たちだけでは意図的な対話が難しいため、少人数に数を限定したり、話すときのルールを決めたりすると、話し合いが活発になるとのことだった。

記念講演では、講師の澤先生が、教育の中でICTが多く活用されるようになり、情報社会が進んでいる時代の中でも、今まで、ろう学校が行ってきた情報を扱うための力を育む教育はこれからも必要なものであり、継承していかなければならないと話されていた。

第63回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「福井大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「変化する社会の中で 自分らしさを生かし 生き生きと輝く子どもたち」
～教育的ニーズに基づいた一人一人の育ちを求めて～

2 内 容

- (1) 記念講演
演題：「一人一人が自分を表現できる未来へ」
講師： 書家／プレゼンテーションクリエイター 前田 鎌利 氏
- (2) 研究報告
三木安正記念研究奨励賞受賞報告
「中学部コーヒー班『CAKUENDAI COFFEE』のあゆみ
千葉県立千葉特別支援学校 教諭 赤間 樹
- (3) 分科会（全15分科会）

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	つながりのある特別支援教育	就学前からつながりのある相談支援の充実	愛知県・福井県
2	特別支援教育コーディネーターの役割	生き生きと輝く子どもたちを育むコーディネーターの役割	三重県・福井県
3	交流及び共同学習	共生社会に生きる力を育む交流および共同学習	青森県・福井県
4	障がい者スポーツ文化芸術活動	スポーツ等を通して、子どもたちの生活が豊かになる取組	香川県・福井県
5	通級による指導	一人一人のニーズに応じた効果的な指導と連携体制	岐阜県・福井県
6	通常の学級における合理的配慮	障がいや特性に応じた合理的配慮	佐賀県・福井県
7	高等学校における特別支援教育	高等学校における特別支援教育の展開	埼玉県・福井県
8	教科別の指導①	教科の良さや学ぶ楽しさを実感できる授業づくり	富山県・福井県
9	教科別の指導②	教科の良さや学ぶ楽しさを実感できる授業づくり	京都府・福井県
10	キャリア教育	自立と社会参加に向けたキャリア教育	静岡県・福井県
11	自立活動	一人一人に応じた自立活動の充実	愛知県・福井県
12	各教科等を合わせた指導（作業学習）	自立と社会参加を目指す作業学習	石川県・福井県
13	各教科等を合わせた指導（日常生活の指導・生活単元学習）	子どもたち一人一人が力を発揮し、生き生きと輝く日常生活の指導・生活単元学習	静岡県・福井県
14	不登校傾向のある児童・生徒への支援	不登校傾向のある児童・生徒の理解と支援	山梨県・福井県
15	知的障がい教育におけるカリキュラム・マネジメント	一人一人の学びが深まるカリキュラム・マネジメント	奈良県・福井県

3 報 告

今年度の本大会は、参集型の大会であり、前回大会より多い950人というたくさんの参加者があった。

1日目は、書家でプレゼンテーションクリエイターである前田鎌利さんの講演が特に印象に残った。チームで働くために必要なこととは何かについて、人と人とのつながり、関係性がとても大切であり、そのためには、相手を理解すること、傾聴することがとても大切だということであった。

2日目の分科会では、会場が分かれ、全15もの分科会があり、提案発表・指導助言が行われた。午前中に提案を受け、午後からは討議の柱がそれぞれに設けられ、各県の先生方との意見交換や情報共有をすることができ、大変有意義な分科会となった。次回開催は、北海道である。

第 70 回 全国肢体不自由教育研究協議会熊本大会

第 61 回 九州地区肢体不自由教育研究大会熊本大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ
「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をめざして」
- (2) 期 日
令和 6 年 11 月 13 日（水）～11 月 15 日（金）
- (3) 会 場
市民会館シアーズホーム夢ホール、熊本市国際交流会館、熊本県立熊本かがやきの森支援学校

2 内 容

- (1) 役員会及び記念講演等
 - ①役員会：代表者研究協議会 校長会 全体研究協議会
 - ②記念講演
講師：栗原 和弘 氏（九州ルーテル学院大学 教授）
演題：「熊本地震の教訓から」
 - ③文部科学省講話
講師：管野 和彦 氏（文部科学省初等中等教育局 視学官（併）特別支援教育課 特別支援教育調査官）
演題：「特別支援教育の動向と肢体不自由教育への期待」
～一人一人の学びの充実に向けて～
 - ④学校公開
熊本県立熊本かがやきの森支援学校の学校説明、研究説明、授業公開、教材等展示見学
- (2) 第 1 分科会～第 10 分科会

分科会	内容
第 1 分科会	授業改善
第 2 分科会	学習指導Ⅰ（準ずる教育課程）
第 3 分科会	学習指導Ⅱ（知的代替の教育課程）
第 4 分科会	学習指導Ⅲ（自立活動を主とする教育課程）
第 5 分科会	自立活動
第 6 分科会	健康教育
第 7 分科会	情報教育・支援機器の活用
第 8 分科会	生活指導・寄宿舎教育
第 9 分科会	キャリア教育及び進路指導
第 10 分科会	地域との連携

- (3) ポスター発表

3 報 告

記念講演では震災時の避難所としての機能を発揮する学校のあり方について話をいただいた。平成 28 年にあった熊本地震後の学校や地域、家庭の状況を詳細に紹介していただき、その中で、被災した生徒や地域の住民を受け入れ、避難所として運営した当時の流れについて説明していただいた。また「福祉子ども避難所」として学校を活用する提案について解説された。

文部科学省講話では、国策としての GIGA スクール構想の現状と今後の方向性について話があり ICT と学習が一体となっていくイメージが伝わった。また、主体的で対話的な深い学びについての授業状況や改善に必要な、指導と評価の一体化、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成についての知見をはじめ、現在求められている様々な視点を学ばせていただいた。

第65回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 栃木大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた生きる力を育む病弱教育の在り方」
～すべての子どもたちの学びの充実に向けて～
- (2) 期 日 令和6年8月7日（水）～8月30日（金）
- (3) 場 所 オンデマンドによる動画および電子文書の配信

2 内 容

- (1) 全体会
 - ① 全病連理事長あいさつ
 - ② 主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演
 - 演題 「病弱教育の現代的意味」
 - 講師 日本大学文理学部教育学科 教授 西牧 謙吾 氏
- (3) 特別講演
 - 演題 「病気の子供の学びの充実のために」
 - 講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課調査官 相原 千絵 氏
- (4) 特別企画
 - 映画上映 「いのち見つめて～高次脳機能障害と現代社会～」
- (5) 分科会

分科会名	事例発表校	指導助言者
①教科等の指導	青森県立青森若葉養護学校 東京都立小平特別支援学校武蔵分教室	昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和 氏
②自立活動の指導	富山県立ふるさと支援学校 栃木県立足利特別支援学校	宇都宮大学大学院教育学研究科 教授 岡澤 慎一 氏
③進路指導・キャリア教育	北海道手稲養護学校三角山分校 千葉県立四街道特別支援学校	東洋大学文学部教育学科 教授 谷口 明子 氏
④センター的役割	滋賀県立守山養護学校 群馬県立赤城特別支援学校	栃木県総合教育センター教育相談部 指導主事 安藤 美幸 氏
⑤PTA	福岡県立古賀特別支援学校 東京都立小平特別支援学校武蔵分教室	全国病弱虚弱教育学校PTA連合会 事務局 相川 利江子 氏
⑥ICT活用	新潟県立柏崎特別支援学校 京都市立桃陽総合支援学校	横浜国立大学ダイバーシティ戦略推進本部 助教 五島 脩 氏
⑦心身症・精神疾患のある子どもの指導	長野県寿台養護学校 佐賀県立中原特別支援学校	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 土屋 忠之 氏
⑧ベッドサイド教育・病院との連携	神奈川県立横浜南支援学校 島根県立松江緑が丘養護学校	群馬大学共同教育学部特別支援教育講座 教授 吉野 浩之 氏
⑨高校生への支援及び学習指導	埼玉県立けやき特別支援学校 愛知県立大府特別支援学校	育英短期大学保育学科 教授 栗山 宣夫 氏

3 報 告

記念講演では、病弱教育の歴史や背景を踏まえながら、現代の学校教育における現状や課題に対して、病弱教育がどのような役割を果たしていくのか、講師の西牧氏の取組も含めながら話があった。病弱教育のノウハウが不登校児の教育にも有効的であるという話が印象的であった。

特別講演では、病弱教育の現状や学びの充実という観点において、多くの資料や統計等から、病弱教育の近年の動向や課題とそれに対する取組などを知ることができた。

分科会では、9つのテーマに分かれて、代表校からの実践事例発表が行われた。各校の取組も大変参考になり、助言者の意見等も今後の指導に生かしていけるものであった。

第 56 回全国情緒障害教育研究協議会 東京大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 『みんなで広げる広がるインクルーシブ教育』
副題 「多様な学びの場を生かした特別支援教育のこれからを考える」
- (2) 期 日 令和 6 年 7 月 27 日 (土)
- (3) 場所 (会場) オンライン (ZOOMのウェビナー) 及びビジョンセンター有楽町

2 内 容

- 7 月 27 日 基調講演・記念講演・シンポジウム

基調講演

演題：『日本におけるインクルーシブ教育システムの構築について』

講師：加藤 宏昭 氏 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)

記念講演

演題：『「個の物語」と「人と人が共に生きるかたち」と人生と』

講師：青山 新吾 氏 (ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授)
(インクルーシブ教育センター長)

シンポジウム

テーマ：『みんなで広げる広がるインクルーシブ教育』

コーディネーター：ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 氏

シンポジスト：旭川市立北門中学校 曾我部 昌広 氏
江戸川区教育委員会 有澤 直人 氏

3 報 告

本大会は、会場参集型とオンラインによるハイブリッド形式で開催された。主題にある「日本におけるインクルーシブ教育システムの構築について」は、文部科学省が平成 24 年に出した「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進(報告)」から約 10 年、義務教育段階の全児童生徒数は減少している一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数は約 2 倍となっている。そのことを受け、今大会で再び原点に戻り、今後あるべき学校の姿を参加者とともに考える上で、大変重要であった。

青山新吾氏による記念講演では、「インクルーシブ教育とは何か？」から始まり、「マジョリティとマイノリティ」「通常学級の教育課程と対話の文化」「個の物語とエピソード語り」「学校づくりモデル」と話が進んでいった。どの項目も考えさせられる内容であった。中でも「マジョリティは数の多さだけではなく、より主流でより権力がある方だということ」、「多様性と差異を大切に取る取組を少しずつでも良いから進めること」、「徹底的に対話しながら考えていくこと」等話していただき、これから先に生きる子どもたちにどのような力をつけ、そのためにはどのような教育が必要なのか考えさせられる貴重な講演だった。参考文献等は、QR コードで紹介され、繰り返し学ぶことができるようにしてくださった。

基調講演では、インクルーシブな学校運営モデル事業や諸外国における特別支援教育の概況が示された。

シンポジウムでは実践豊富な二人のシンポジストが話題提供をしてくださった。教師から見た実践の物語としてだけではなく教え子がどのように感じていたのかなど、当時の子どもたちから見た物語にも触れられたことで、よりリアルな実践の姿を知ることができた。それぞれの実践の物語を通して見えてくるインクルーシブ教育の課題や、教員に求められる視点などについて考える良い機会となった。

第53回 全国公立学校 難聴・言語障害教育研究協議会（沖縄大会）

第48回 九州地区難聴・言語障害教育研究会（沖縄大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの難聴・言語障がい教育に期待されるもの」
～子どものよさを生かす支援のあり方とは～
- (2) 期 日 令和5年8月9日（金）・10日（土）
- (3) 場所（会場） 那覇文化芸術劇場 なはーと

2 内 容

- (1) 記念講演 『難聴・言語障害教育において大切にしたい視点ー「今ここ」、そして「生きるかたち」ー』
講師 牧野 泰美 先生（独立行政法人国立特別支援研究所研究企部上席総括研究員兼部長）

基調講演 『通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への指導・支援の充実』
講師 村上 学 先生（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官）

- (2) 分科会（敬称略）

① 第1分科会「構音」

【コーディネーター】西田 立郎（言語聴覚士 全難言協シルバー人材活用センター）
【提案】沖縄県 鹿児島県

② 第2分科会「吃音」

【コーディネーター】仲野 里香 先生（ことばの相談 nakano 代表 言語聴覚士）
【提案】長崎県 熊本県

③ 第3分科会「言語発達」

【コーディネーター】阿部 厚仁 先生（東京都世田谷区立鳥山北小学校 主任教諭）
【提案】福岡県 佐賀県

④ 第4分科会 「聴覚」

【コーディネーター】木島 照夫 先生（難聴児支援教材研究会）
【提案】沖縄県

⑤ 第5分科会 「連携」

《テーマ》子どものために、どう連携し支援していくか。

【コーディネーター】大城 政之（浦添市教育委員会学校教育課特別支援教育コーディネーター）
【提案】宮崎県 大分県

3 報 告

本年度の九州地区研究会は、全国公立学校教育研究会全国大会と合同開催であった。コーディネーターも全国の著名な方を招き、全国の難聴言語教室担当者が一堂に会したことで、深い学びの機会となった。開催地が沖縄ということで、他の九州各県での大会と比べて対面参加が物理的に難しい面もあったが、対面参加の他にも、オンデマンド配信の視聴ができるなど、多様な参加方法を選択することができた。

基調講演を始め、各分科会の発表、協議、講義により、大会主題である「子どものよさを活かす支援のあり方」について、考えを深めることができた。

本県からは、第5分科会にて、竹田泰代教諭が教室経営と他機関との連携に関する実践内容ということで、在籍校や以前に指導担当していた医療機関、次の進学先の学校との具体的な連携について発表した。